

## 学長の業績評価結果(業務執行状況の確認)

|       |              |      |         |
|-------|--------------|------|---------|
| 日付    | 令和 4年 3月 30日 | 対象年度 | 令和 3 年度 |
| 評価対象者 | 栗林 澄夫        |      |         |

### 1. 評価

- 順調である。  
 おおむね順調である。  
 改善の努力が必要である。

### 2. 確認事項とそれに対する委員からのコメント

#### ●評価項目別評価

##### ○教員養成を先導するフラグシップ大学への挑戦

- ・令和4年3月9日に文部科学大臣から教員養成系のフラグシップ大学の指定を受けたことは、学長在任期間におけるもっとも優れた功績のひとつである。
- ・「3つの視点構想」から「7つの課題解決実現化」へと着実に計画を展開している。具体的には、①地方自治体出資による「協働研究講座設置」、②地方自治体、産業界、そして大学の3者が連携協力した「合築施設建設構想」の両方で順調に取り組みが進んでいる。

##### ○強靱なガバナンスに支えられた大学運営

- ・「フラグシップ大学として日本の教育界の先導役を務める」という明確な標語で大学改革を進めてきた。コロナ対策に追われる中、これだけの結果を残したことは非常に大きな実績と考えられる。しかしながら、下からの自主的な改革の動き、権限委譲が十分に進まなかった点は残念であるが、幸いなことに、現在、目標に向かって教職員の団結が進みつつあると理解している。全構成員が大学の課題を共有し、更なる高みを目指すことが今後の課題と考えている。

##### ○大学院改革(教育学研究科の改組)

- ・教育学研究科については、改組後1年が経ち、順調な滑り出しができたといえよう。今後、教職大学院に加えて、教育学研究科においても教育委員会や企業との連携を強化すべきである。

##### ○附属学校園改革

- ・順調である。主たる理由は次の2点である。①附属学校園担当理事を機構長として附属学校と大学との連携強化を目指す組織改革に取り組んだこと。②3地区(天王寺・池田・平野)それぞれのグラデュエーションポリシーを定め、大学においては教育研究開発チームを編成する等、附

属学校園の具体的な将来構想を提言したこと。

### ○新たな国立大学の役割に応じた規模の設定

・教員組織としての「系」の構築および 2017 年の学部改組により一定の成果が出ている。また、教員養成の高度化を目指した私立大学との連携推進、他の国立大学と協力した博士課程設置に向けた検討や文部科学省への働きかけ等、国立大学の役割に応じた規模の設定に向け、順調に取り組みが進んでいる。

### ○その他、特記事項

・大阪市教育委員会との連携を強化しつつ、大阪市と本学との学校教育における複数の協働プロジェクトに着手し、わが国初の取組みとなる地方公共団体(行政)、民間企業および大学との合築施設を天王寺キャンパス内に建設する構想を実現に導いた手腕は、学長在任期間においてもっとも優れた功績のひとつである。

### ●総評

対象期間における学長の業務執行状況の確認を、学長ヒアリングにより実施した。その結果、特別再任時の計画等を着実に実施したことに加えて、教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたこと、および地方公共団体、民間企業、そして大学との合築施設を天王寺キャンパス内に建設する構想を実現に導いた点について、特に高い実績をあげたと認められた。よって、評価最上位の「順調である」とした。